

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1192300208		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム和光中央		
所在地	埼玉県和光市中央2-5-84		
自己評価作成日	令和 2年 10月 23日	評価結果市町村受理日	令和 3年 1月 18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	令和 2年 11月 16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの畑で季節の野菜を栽培、収穫しています。
農作物に詳しい入居者様に手伝ってもらい土の耕しや成長の過程を楽しんでいます。
また、現在は外部との交流が難しい状況の中ですが、職員一丸となり「今できることを考えて取り組もう」とイベントやレクリエーションを計画し実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、介護職の価値向上を目指し、介護の仕事を一生続けられるようにと考え、職員には、自分たちも楽しく過ごせるようにと伝えている。各フロア一間のコミュニケーションをとるために、玄関に「ありがとうの樹」と言う物を作った。そこには職員、家族、利用者の誰もが参加でき、花の型の用紙でありがとこの花を咲かせると言う物で、たくさんの声がかかれ、管理者は効果があると実感している。コロナ禍で外出行事や家族、地域との交流に制限がある中、「外でなら運動会ができるのでは」という職員からの提案を取り入れ、全職員参加で無事に開催して、利用者は楽しむことができた。庭の畑では、利用者と一緒に野菜や芋を作り、収穫した作物は利用者の希望で天ぷらにして食べる等、利用者の要望、希望を大切に支援をおこなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念と共に事業所の理念や目標を各職員に周知している	法人の新ビジョンは「認知症を超える」であり、申し送り時に事業所理念と共に唱和し、職員と共有を図っている。ケアに悩んだ時は、プロフェッショナルとしての仕事を目指し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の散歩時のご挨拶や催事開催時のご挨拶など行っている	コロナ禍で制約がある中、運動会を開催する際、近隣から「音は構わないよ」「コロナで大変でしょう」と声をかけてもらったり、定期的に来るパンの移動販売時に会話を楽しむ等、日常的に交流をしている。	コロナ禍においても、できることを考え、更に地域と交流が深まることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍において活動が出来ていないが感染対策を行いながらの取り組みを思案中		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染防止の為、今年度4月からは行えていない	12月と2月は開催しているが、その後はコロナウイルス感染予防のため、行政からは中止の承諾を得ている。開催時は、活動報告や事故報告を行い、参加者からは意見や提案を貰う等、サービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に担当者と連絡を取り、運営や入退去の相談などを行っている	入居、退去に関して役所に相談することが多い。入居待ちの状況や、退去理由を伝え、それらに対して指示やアドバイスをもらう等、日頃から連絡を密に取り、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月ごとの定期的な研修や、新入職時など全職員に周知している	職員による身体拘束チェックシートや、3ヶ月毎に行う委員会で話し合いをしている。虐待については入職時に研修をしている。帰宅願望の利用者には外に出る時間を作る等、職員間で協力しながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修や管理者が各ユニットを巡回し慣れや見過ごしがないよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等の研修は行っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧に説明するよう心掛けている 問い合わせには随時対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の意見箱やアンケートなど行っており 意見があった際は対応している	毎月のお便り「ひだまり」「わがや」に写真や、利用者の状況等を載せ、そこに家族から意見や要望を受ける文章を載せている。利用者からは「庭の畑に芋を植えよう」と要望があり、実行する予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個人面談を行っている また意見・提案は会議などで話し合っている	その都度職員から話を聞く機会が多いが、定期的に行う個人面談や、毎月のフロア会議で提案や意見を聞いている。11月に開催した運動会は職員からの提案で全職員が参加し、利用者を盛り上げた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員確保・就業環境の改善に取り組み、常に良好な環境で就業できるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の希望等に合わせ外部研修や、内部勉強会などの参加機会を提案している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍において活動が出来ていないが 感染対策を行いながらの取り組みを思案中		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員間の連携を図り、ご本人が安心できる関係構築、環境整備に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学の段階より、困りごとを伺いながら良好な関係性構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	定期的なカンファレンスやご家族への連絡等行い支援の検討を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯など日常生活のお手伝いなどを行って頂きながら良好な関係作りをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のご理解、ご協力を得ながら運営している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	Web面会も開始し利用して頂いている。ホーム内でも馴染みの関係同志、交流がもてる機会を設けている	コロナ禍の工夫として、ウェブ面会や短時間面会の他、天気の良い日は、外のベンチで面会を行う等、馴染みの関係継続の支援に努めている。ホーム内での知り合いの方は、一緒の時間を設けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	基本的にはご自由に過ごして頂くが、居室に戻られた方は定期的にお声掛けをし孤立感を感じない取り組みをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご連絡、ご相談に応じ対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各々の想いをケアプランに載せたり、ご本人本位の対応を心掛けている	居室担当者がモニタリングを行う他、日常の中で一人ひとりの思いの把握に努めている。筆豆な利用者が運動会当日の事を「自分がこのフロアーの一員になることができた」と思いが記されていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの情報をもとにアセスメントを作成し職員へ周知している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の生活習慣など継続して行っていたくよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向をもとにモニタリング・アセスメント等を行いフロア職員全体、関係者で話し合っている。	3ヶ月毎に居室担当者がモニタリングをした後、フロアー会議でカンファレンスを行い、計画を見直している。家族からの誤嚥や転倒予防の要望を取り入れる等、利用者の現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録を詳細に行い、情報共有を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態、状況に合わせ柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	慣れ親しんだ事、場所、人など把握に努め支援や会話に生かすように努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関と連携を図り、往診や受診に対応している 医療面からの助言、指導なども受けられる体制を整えている	月2回、内科医の訪問診療を受ける人のほか、入居前の病院に通院している人もいる。24時間緊急時対応がある。歯科、看護、言語聴覚士の訪問があり、各専門分野での治療・評価等、職員と連携をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連絡、相談など適宜行き適切な対応ができるよう努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者やご家族への連絡は随時行い、問い合わせに対しても対応している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、医療関係者との話し合いを密に行い、支援内容や方針を共有。できる限りホームでの生活が継続できるよう支援している	入居時に、重度化や終末期に向けた方針の説明をしている。その後は、利用者が食事が進まなくなった時に、更に詳しく事業所でできる事、できない事を十分に家族に説明し、終末期のあり方を決めている。今年度は1名看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応などは各フロアに掲示し全職員へ周知徹底している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の昼夜想定避難訓練を実施。今後、地域との連携も図っていきたい	コロナ禍だが、年2回避難訓練を実施した。防災マニュアルは、地震、水害も含まれている。訓練や台風の経験からランタンを増やす等、対策の強化に努めている。非常食の備蓄や避難場所の確認を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的な事を怠らないよう、定期的な勉強会などを行っている。	毎月行う勉強会の中で、尊厳やプライバシーについて学び、実践に繋げている。ベッド上での排泄介助や入浴時はタオルをかけたり、利用者の呼び方等、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	質問の仕方を工夫し、自己決定できるような働きかけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活に支障のない範囲でご自身のペースで生活をしていただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容や更衣などご自身で選んだり、出来るような工夫や声掛けをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳や食器洗いをしていただいたり、定期的におやつをフロアで手作りし五感でも楽しんでいただく取り組みをしている	畑で収穫した食材を、利用者の希望で天ぷらにしたり、行事食として芋煮、赤飯、お寿司、おせちを用意したりと、食事を楽しむ支援をしている。利用者と一緒に作るおやつも楽しみの一つになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量など記録(データ化)して全体の把握に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや介助を行い、歯科往診医とも連携し口腔衛生に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、時間やタイミングなどを工夫し支援を行っている	排泄チェックを確認し、声かけをしている。手すりに掴まり立位ができる人は、トイレでの排泄を支援している。リハビリパンツから布の下着になったり、オムツからリハビリパンツになる等、自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維などを取り入れた飲料やおやつなど提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や医師の指示等にもよるが、主に午後に入浴をさせていただいている	週2回、午後からの入浴を基本としているが、事情に応じ臨機応変な対応をしている。一対一になる入浴を職員は大切に、ゆっくりとリラックスできるように支援をしている。同性介助の希望に応じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	灯りや温度などにも留意し安眠できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服内容の変化等もフロアごとに申し送りをし内容の把握に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事をしていただく取り組みをし、庭掃除や畑仕事など個々に応じた楽しみを支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩や外気浴等行っている。コロナ禍において外出機会は減っているが今後再開していきたい	コロナ禍で外出に制限を強いられる中、3密を避け近隣での散歩は継続している。飲み物の購入希望に対しては、外に設置している自動販売機でジュースを買う等で、利用者の希望にそえるよう工夫をしている。家族と散歩をする利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の状況により自己管理している方もおり ご自身で飲み物を購入したりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は、基本的にはご本人に取り継いでいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるよう、装飾など工夫している。 基本的には皆さまで作ったものなどを飾るようにし 温度や湿度にも配慮している	リビングの壁には、手作りコスモスが飾られ、季節感を演出している。イベント開催や、スイカ割り、おやつレクリエーション等、様々なシーンに合わせ活用している。日常では利用者は体操や将棋、新聞、脳トレドリルにと各自過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子など、自由にくつろげる空間を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には使い慣れたものをご持参いただいている。配置などもご本人、ご家族と相談している	馴染みのある家具、仏壇、テレビ、アルバムや使い慣れた物を持ち込んでもらい、家族と配置を考えている。入居後、身体状況に合わせた仕様に変更する等、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や共用部の導線確保や、廊下などは手すりを配置し安全確保、自立への配慮をしている		